

### 1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり		30年度事業・施策評価結果		責任者	企画調整室 環境担当課長
施策名	良好な港湾環境の形成		成果	コスト		
事務事業名	港内環境の調査				連絡先	052-654-7856
目的	対象(誰・何を)	港内の水環境		事業 期間	～継続	
	意図(どうい う状態にしたいか)	良好な状態に維持します。				
概要	港内の水底質調査等を行います。				根拠 法令等	海洋汚染等及び海上災害 の防止に関する法律、大 江川河口域及び7・8号地 間運河の底質監視計画な らびに対策指針
令和元年度の実施予 定	公害防止事業により敷設されたアスファルトマットの効果を確認するため、水質調査(6地点、年間4回)を行います。 中川運河、堀川の水質調査(11地点、年間12回)を行います。 浚渫工事を実施する場合は、事前に底質の調査を行います。 中川運河の死魚発生抑制のため設置している魚の迷入抑制ネットの効果を調査します。 貯木場において、水質・底質等の調査を行います。				実施義務	有 無
					関連 シート	

### 2 DO(実施)

令和元年度に実施した 内容・結果	水質の定期調査及び浚渫工事のための底質調査を行いました。 中川運河下流部にネットを設置し魚の迷入抑制状況を調査しました。 貯木場において水交換による水質改善状況等を調査しました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	2,948	2,220	5,885	3,684	令和元年度から事業費の考え方を見直し、事業費は増加しています。
人件費	千円	17,000	14,750	11,926	14,559	
合計	千円	19,948	16,970	17,811	18,243	

### 3 CHECK(検証)

成果目標名		29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
測定計画等に基づく 水底質調査の実施 率(%) (単年度管理型)	目標			100		100	港内の水底質調査の実施回数÷年度の調査 必要回数(%)	
	実績	100	100	100				
	事業進捗状況(元年度)			<small>目標値を上回る</small> <small>目標値をやや下回る</small>		<small>目標値どおり</small> <small>目標値を下回る</small>		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	目標							
	実績							
	事業進捗状況(元年度)							
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	適切に水質調査や底質調査を実施しました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 中川運河等の水質調査は水環境改善に向けた基礎調査として必要です。 アスファルトマットの効果を確認するための水質調査は、名古屋市環境局が策定した指針に基づき実施する必要があります。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか?	○ 浚渫工事のための底質調査については海洋汚染防止法に基づき義務付けられています。						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ 現況を把握する水質・底質調査は必要な基礎データが得られています。 魚の迷入抑制ネットについては、魚の誘導効果が確認でき、また、貯木場における水交換については、水質改善・悪臭抑制効果が確認できました。						
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 調査は、専門的機関への委託により進めました。						

### 4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性	成果	コスト	判断理由
		維持	維持	
継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	水底質の状況を定期的に調査する必要があるため。		
課題		2年度以降の取組		
水底質の状況を把握するために必要な調査を、継続して行う必要があります。		引き続き、定期的に水・底質調査を実施し、水環境を良好な状態に維持していきます。		